

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—2号



2007.05.23

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01
From the President / Masaru MAENO

2007年次第1回拡大理事会報告(3/18)／赤坂 信 02
Report of the 1st Meeting of the Executive Board, 2007
Makoto AKASAKA

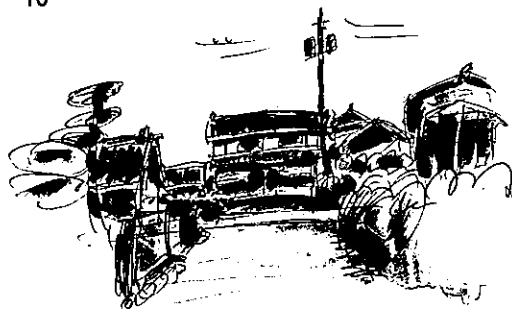
「水中文化遺産保護に関するアジア・太平洋地域の専門家会議」報告
荒木伸介 04
Report of the Scientific Committee on the Conservation of Underwater
Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region
Shinsuke ARAKI

「富士山の世界遺産暫定リスト登録について 一現状と課題一」研究会報告
黒田乃生 05
Study group report: "Registration of Mt. Fuji on the Tentative List of
World Heritage, present situation and future issues"
Nobu KURODA

「歴史的建造物保存修理と復元展示における構造補強について」
見学会・研究会報告／花里利一 06
Study group and site visits report: "Structural reinforcement in the
presentation and conservation of historic buildings"
Toshikazu HANAZATO

お知らせ 07
Announcement

事務局日誌 10
Diary



イラスト／前野まさる (以下全て)

はじめに
前野まさる



第1回の拡大理事会は、3月17、18日の両日、三重県の新装なった絵熊野檜造りの県立熊野古道センターで行ないました。理事会に先立ち、17日には世界遺産に登録された「熊野古道」の一部を歩き、世界遺産登録を喜べない人たちの不満も見せてもらい、世界遺産管理運営の難しさも教えられました。三重県の古道センター、県及び尾鷲市教育委員会の方々にはお世話になり、ありがとうございました。昨年来、理事会を世界遺産関係の地域で開催していますが、色々勉強になることが多くあります。

かつてチベットのラサの世界遺産・ポカラ宮殿の麓の地域にある高層建築が世界遺産の環境に相応しくないと問題になった事がありました。2004年にはケルンの大聖堂の対岸の高層建築開発が世界遺産のケルン大聖堂の景観を阻害すると危機遺産登録問題が持ち上がりました。日本でもバッファゾーン問題が各地で起きています。2005年の西安総会では、世界遺産の背景となる風景の規制も問われるようになりました。

2006年のVernacular建築学術委員会(CIAV)では“Pride of Place”をテーマとして論議しました。2008年のQuébec総会のテーマは“Finding the Spirit of the Place”となり、さらに問題が、文化、技術的側面から文化遺産の神秘性・感性へとなって参りました。場から受ける“Spirit”は個人差もあり、技術的論議とはまた異なる視点を持つ必要があると思います。Settingの問題は終わった訳ではありませんが、これを弾みとして、今年1年、イコモス国内委員会で、Québec総会へ向ける研究会を大いに開き、会員皆様と論議し、理念を高めていきましょう。

2007年次第1回拡大理事会報告

2007年次第1回拡大理事会が、去る2007年3月18日(日)午前11時から13時まで三重県立熊野古道センター会議室(尾鷲市)で開催された。出席者は、委員長:前野まさる、副委員長:杉尾伸太郎、事務局長:矢野和之、理事:赤坂 信、岡田保良(本部執行委員)、西浦忠輝、花里利一、濱崎一志、益田兼房の各氏。報告事項、協議事項、審議事項は以下の通りである。

報告事項

1. 臨時理事会報告

2007年1月27日に開かれた臨時理事会については、JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌7期1号(pp.18-20)を参照されたい。

2. 広島原爆ドーム問題と鞆の浦問題について

広島原爆ドーム問題については、勧告文を内閣総理大臣、広島県知事、広島市長に提出し、鞆の浦問題については、勧告文を内閣総理大臣、広島県知事、福山市長に提出したことが報告された。なお、鞆の浦における埋め立て反対に対する抗議書について返書を出すとともに、福山市に対して公開質問状を送付した。以上2件、委員長から報告された。

3. 「かながわ考古学財団」について

「かながわ考古学財団」を廃止し、発掘調査部門を民間に切り離すことに関して、小野昭理事から『空洞化する文化財保護』(中日新聞2007.03.02)と題する記事で、きわめて憂慮すべき事態であることが報告された。

4. 国際木の委員会(IIWC)からの報告

国際木の委員会(IIWC)から以下の報告が伊藤延男顧問からあった。

・第16回IIWC会合およびシンポジウムが以下の日程で開催される。

2007年11月11～16日の週の内・フィレンツェ(イタリア)
テーマ: "From Material to Structure, with a special focus on the technical aspects of the failures of the timber structures"
論文発表: 梗概提出期限 2007年5月末、本文提出期限 8月末

・昨年、伊藤からの問い合わせで「木の委員会メンバー」となることを希望された人には到着した関連の情報はすべて転送している。

審議事項

1. 入会者、退会者の承認

入会者 個人会員

氏名	所属	専門分野	推薦者
江田修司 (えだ しゅうじ)	(株)江田編集企画室 代表取締役	町並み保存	前野まさる・矢野和之
堀 繁 (ほり しげる)	東京大学アジア生物 資源環境研究セン ター 教授	景観工学、地域計 画、空間デザイン 農学博士	杉尾伸太郎・杉尾邦江
鉄矢悦朗 (てつや えつろう)	東京芸術大学・芸術 スポーツ科学系 美術講座 助教授	建築設計・デザイン 修士(美術)	前野まさる・金井 健
北川 卓 (きたがわ たく)	フレームデザイン(株) 代表取締役	建築設計 文化財保存学 修士	前野まさる・金井 健
三浦恵子 (みうら けいこ)	早稲田大学 文学学術院 非常勤講師	人類学・遺産学・ 東南アジア地域学	稲葉信子・矢野和之
岡田宜之 (おかだ よしゆき)	金沢市歴史遺産 保存部 部長	一般行政職	矢野和之・西村幸夫
埜 将浩 (のち まさひろ)	(株)日本海コンサル tant 取締役 計画本部長	都市及び地域計画 博士(工学)	矢野和之・西村幸夫
張 大石 (チャン・テソク)	東北芸術工科大学 文化財保存修復研 究センター 助教授	文化財保存学 保存科学/博士	田中哲雄・矢野和之
恒川久美子 (つねかわ くみこ)	国際航業株式会社 文化事業部 企画 担当営業課長	考古学 遺跡保存活用 整備計画	矢野和之・高木浩志

修士学生の入会希望者の扱いについて討議された。イコモス会員となれば専門家としてアドバイスを求められることもあり、それなりの資質が求められる。パリ本部には登録しない



かたちで学生会員をつくれるのではないか。会員内規に明記していないが、ドクターコース在籍者までが入会可か。本年12月の総会までに、学生会員（本部登録なし）、国内向けサポート会員、国際賛助会員に関する原案を作成することになった。

退会者 なし

日本イコモス国内会員 会員数 個人会員 310名
維持会員 14社

協議事項

1. 新理事の役割分担

事務局から理事の役割分担の案が示され、了承されたのは以下の通りである。

第7期日本イコモス国内委員会理事の役割分担

・総務・庶務担当理事：法人化準備、理事会等準備・運営、事務局の運営

→ 矢野和之、西村幸夫

・会計担当理事：財源確保

→ 矢野和之、渡邊保弘

・広報・編集担当理事：イコモスインフォメーション誌編集、ホームページ立ち上げ・管理

→ 赤坂 信、黒田乃生、濱崎一志、
〔山田幸正〕*（ホームページ）

・渉外担当理事：海外情報収集・伝達、対応

→ 西村幸夫、〔岡田保良〕*

・会員担当理事：会員、維持会員

→ 杉尾伸太郎、田辺征夫

・事業担当理事：研究会・シンポジウム、国際会議の企画運営、出版・講演の企画

→ 西浦忠輝、西村幸夫、清水真一

・世界遺産担当理事：日本国内で登録された世界遺産はそれぞれ幾つかの課題を有しており、これらの現状を日本イコモスとしても常時把握しておく必要性が指摘され、検討され

たが、引き続き協議することとなった。

*：特別協力

2. 理事を補佐するメンバーの創設

理事の活動の活性化を促すとともに、その負担を軽減するために理事を補佐するような体勢をつくることについて、本年1月27日の臨時理事会で提案され、今回協議されたが、今後も継続して協議することとなった。

3. 小委員会、特別委員会について

(1) 世界遺産小委員会

規約に特別委員会の規定がないため、国内の世界遺産のモニタリングは世界遺産小委員会（第4小委員会 稲葉信子主査）で特化して行なうこととなった。部分的に人選は進んだが、継続して協議することとなった。

(2) 文化遺産と都市開発小委員会の分化

この小委員会は多くの課題を同時にもっているため、3つのテーマに特化して分担することが協議された。

○文化遺産と都市開発小委員会：第6小委員会を鞆の浦問題に特化する。

益田兼房（主査）

○（仮称）白川郷・五箇山地区交通問題等小委員会：第7小委員会を新設する。

西村幸夫（主査）

○（仮称）文化遺産のバッファゾーンに関する小委員会：第8小委員会を新設する。

崎谷康文（主査）

4. 2007年次理事会の日程と開催地（予定）

以下の本年の日程について協議された。

5月26～27日 第2回拡大理事会／岩手県平泉

9月22～24日 第3回拡大理事会／（長崎県五島列島）

ただし、別案として

①9月22日に東京で理事会後、現地で研究会

②9月22日に長崎で理事会を開催の後、現地で研究会

12月8日 第4回拡大理事会・総会／東京

5. 主催・共催・後援

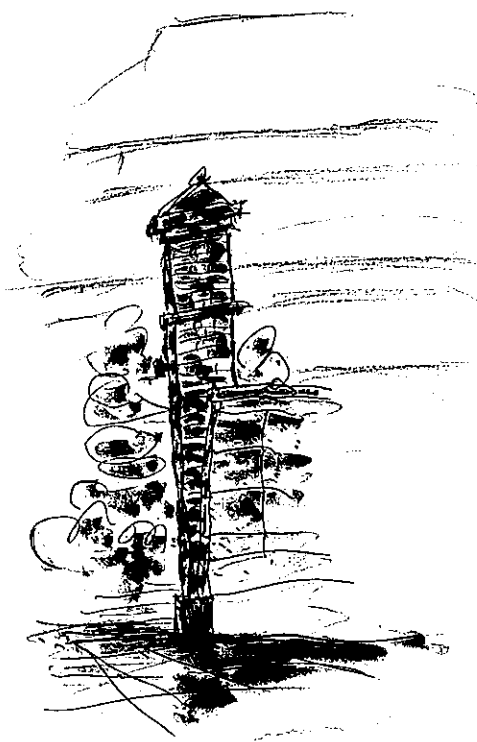
(1) 2007年4月21日開催 日本イコモス国内委員会主催の研究会のため、奈良文化財研究所へ共催を申請した結果、名義の使用許可の返答があったことが報告された。

(2) 日本・イラン ICOMOS 協力事業について

1月30日 Mehrdad HEJAZI イスファハン工科大学助教授を迎え、岩波書店一ツ橋ビル（東京）の会議室で開催された研究会「イランの文化遺産保存」で、バム遺跡について報告された。同氏に託されたイラン ICOMOS 委員長の手紙に日本・イラン ICOMOS 協力事業の呼びかけがあり、今後、調査に関する情報交換の場を提供することが協議された。

6. その他

日本郵政公社より本年3月付で「個人情報を含む電子媒体盗難についてのご連絡とお詫び」があり、その紹介があった。



「水中文化遺産保護に関するアジア・太平洋地域の専門家会議」報告

荒木伸介

2007年4月9日から3日間にわたってユネスコ主催の「水中文化遺産保護に関するアジア・太平洋地域の専門家会議」がスリランカのゴールで開催され、招請を受け出席した。

この会議に先立ち、1日から9日まで“UNESCO – ICCROM Asian Academy for Heritage Management”が主催する“Cultural Impact Assessment & Maritime Archaeology”のトレーニングが当地で開催されており、20名ほどの大学院クラスの受講者が参加していた。この中には日本からも2名（オーストラリアの大学院留学生と筑波大大学院生）が参加していた。9日には彼らの最終成果の発表会、そして修了証書授与式に我々は参加させられた。

会議には10数カ国からの参加者があり（中国、韓国は欠席）、主要テーマは言うまでもなく2001年に制定された「水中文化遺産保護に関する条約」批准推進であり、各国の状況の報告、今後の活動方針などが協議された。ICOMOSあるいはICUCHと直接的に関連する会議ではないが、参加者の多くはこれらのメンバーであった。

かなりの国が、水中考古学まがいの巧妙に仕組まれたトレジャーハンティングに苦慮されており、条約の早期発効を願っていた。それに引き換え、日本はこの問題に関しても極めて暢気であるが、埋蔵文化財に関してよく整備された文化財保護法は領海に及び、各地の漁業協同組合の存在が、ある意味で監視の目の役割を果たしていることを述べ、幸いにトレジャーハンティングの事件も存在しないと報告した。

今後の活動としては、文化庁の委託研究として平成元年から平成3年にかけて行なわれた「遺跡保存方法の検討—水中遺跡—」（受託者 長崎県水中遺跡調査団 団長 鷹島町（現松浦市）長 宮本正則 報告書は平成12年刊行されている）において全国市町村を対象としたアンケート調査により「水中遺跡あり」との回答を得た市町村の担当者を結集して研究協議会を開催し、情報ネットワーク構築していくことを伝えた。本年度から3カ年計画で「日本財団」の補



助を得、松浦市教育委員会とNPO法人文化財保存支援機構（理事長 三輪嘉六）との共催で実施する予定である。今年度は7月6日から3泊4日の日程で松浦市鷹島町において第1回研究協議会を開催することで準備が進められている。

また、鷹島海底遺跡からの引き揚げ遺物の重要文化財指定に向けての準備も進行中で、指定の暁には、水中文化遺産に関する大型企画展を「船の科学館（予定）」で開催し、わが国における水中文化遺産に対する関心を高めていきたいと報告した。幸い、UNESCO および参加各国からも応援の手を差し伸べていただけるような感触が得られた。

「富士山の世界遺産暫定リスト登録について —現状と課題—」 研究会報告

黒田乃生

毎年4月18日はイコモスが推薦し、世界中の国内委員会が行事を開催するInternational Day on Monuments and Sitesである。2007年のテーマは、Cultural landscapes and monuments of nature で、日本イコモス国内委員会は、今年1月に暫定リストに登録された富士山について考える研究会を東京神保町の岩波書店アネックスで開催した（参加者は37名）。研究会には山梨県企画部世界遺産推進課、静岡県世界遺産推進室から担当者をお招きし、講演とディスカッションを行なった。

講演は山梨県企画部世界遺産推進課課長吉澤公博氏が、暫定リスト登録に至る経緯とともに自然遺産ではなく文化遺産を目指す理由、自衛隊の演習場や富士五湖の問題、利用に関する問題などについて写真を見せながらわかりやすく説明された。富士山は巡礼や参詣に関連する要素、山岳に関連して形成された信仰、芸術作品にも表現された景観美などを文化的価値として「文化的景観」での登録を目指している。地元では10年以上も続けているマイカー規制の他に山小屋の改善などの取組みが行なわれている。

ディスカッションでは富士五湖の住民が規制強化を心配していることへの対応や観光客の規制誘導対策についての質問があった。また、「自然遺産から文化遺産に変わったことに対して世の中は『安易に鞍替えた』ともとらえているようだが、どう考えるか」という厳しい質問もあり、担当者が「決してそのような事実はなく、マスコミがつくりあげたイメージである」と反論する一幕もあった。今後は再度遺産の要素となるものを有形、無形ともに洗い出し、包括的な保存管理計画の策定に向けて取り組んでいくということである。



（上下とも）研究会の様子

（撮影：事務局 秋枝）

「歴史的建造物保存修理と復元展示における構造補強について」見学会・研究会報告

花里利一

奈良では世界遺産唐招提寺金堂の保存修理と平城宮跡大極殿正殿の復元事業が行なわれている。これらはいずれも古代の大型の木造建築で、耐震検討と構造補強がなされている。日本イコモス国内委員会では、この機会に歴史的建築物の構造補強のあり方について理解を深めて議論するために、奈良文化財研究所の共催を得て本年4月21日に見学会と研究会を催した。参加者は、前野委員長を初め約30名であった。見学会の部では、まず、午前中に唐招提寺金堂を奈良県教育委員会の山田宏氏の案内で見学した。現在、金堂の修理工事は屋根葺きの段階にあり、構造補強はすでに見えなくなっているが、展示模型でわかりやすく説明がなされた。修理工事前は屋根重量による変形が顕在化し、今回の修復では、木補強材を旧来の部材を傷めずに挿入した補強が行なわれている。また、耐震解析によれば、将来起こり得る最大級の地震動に対しても倒壊は免れると判定され、金堂の修理工事ではとくに耐震補強は行なわれていない。歴史的建築物の構造修復の原則は、最小限の補強、可逆的な補強であり、本事例もこの原則をふまえたものといえよう。バスで移動後、昼食をとり、午後は奈良文化財研究所の今西康益氏らの案内で大極殿正殿の建築現場を見学した。平城宮遷都1300年記念事業として行なわれている大極殿正殿の復元も、2010年の完成を目指して工事は進んでいる。この大規模な伝統的な木造建築の構造設計の特徴は免震工法である。すでに完成している朱雀門が耐震壁を用いた耐震工法であるのに対し、大極殿正殿の復元構法を活かすための工法として採用されている。今回は積層ゴム、リニアスライダー、壁型粘性ダンパーを用いた免震装置を見学した。免震工法を採用した場合、基礎の工法が問題となる。この事例では、世界遺産平城宮後の埋設文化財を保護するために、地盤は80cm盛土し（うち、30cm地盤改良）、基礎を設ける工夫を行なっている。また、復元ではあるが、新築建築物として建築基準法の適用を受け、設計にあたって

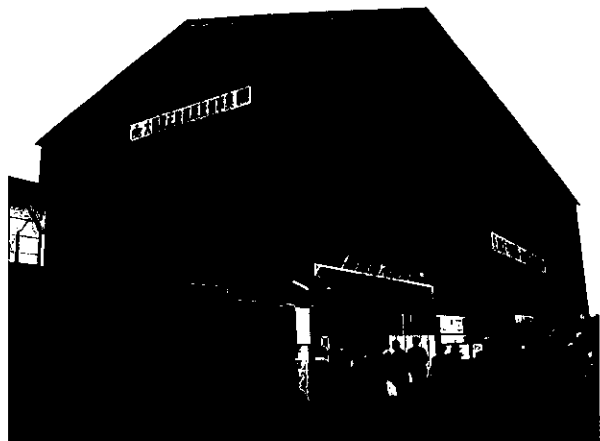
は日本建築センターの性能評価（免震）を取得している。

見学会の後、奈良文化財研究所小講堂において、慶応大学教授坂本功氏のコーディネートにより研究会が開催された。研究会では、まず、坂本氏が、文化財建造物の構造と補強について、歴史的な観点を交えながら解説した。次に、唐招提寺金堂の保存修理、平城宮跡の変遷と復元事業の説明が、それぞれ山田宏氏および金井健氏（奈文研）によりなされた。討論では、耐震検討における入力地震動の評価などの構造的な問題から、『復原』の用語に関する問題まで幅広く、かつ、自由に討議がなされた。坂本氏より、「今後は、文化財専門家の方からの構造補強法の提案に期待する」旨、コメントがあったが、このような催しに文化財関係者が多く参加した（参加者30数名中、構造専門家はおそらく3～4人）ことは、理解を深めるよい機会になったと思われ、今後の企画も期待される。最後に、前野委員長らが締めくくり、予定の午後5時に終了した。



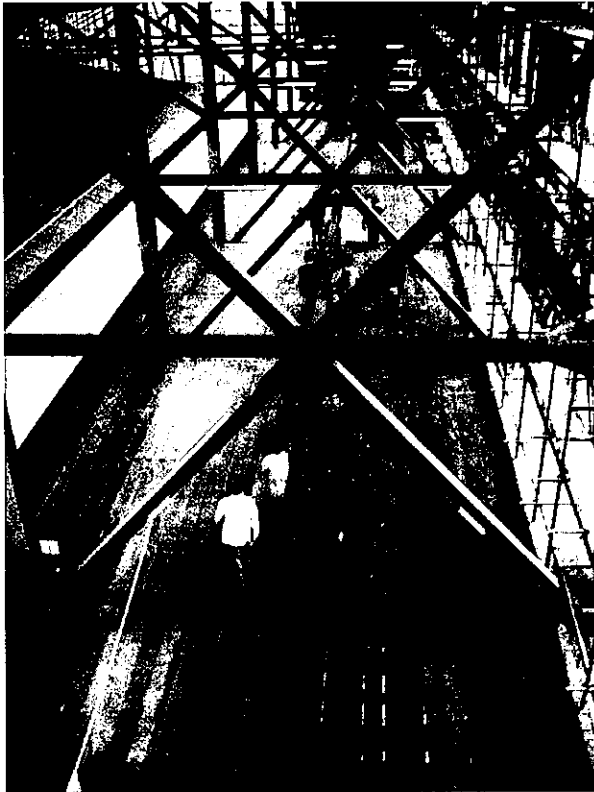
唐招提寺にて

(撮影：事務局 秋枝)



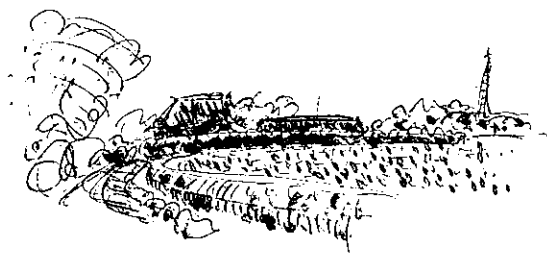
平城宮跡 大極殿正殿にて

(撮影：事務局 秋枝)



平城宮跡 大極殿正殿にて

(撮影：事務局 秋枝)



お知らせ

イコモス本部から各国の国内委員会に届いているお知らせです。

(イコモス本部から、2月9日付)

Subject: Minutes - ICOMOS Executive Committee meeting, 22 and 23 January 2007 now available on ICOMOS web site

Subject:

Minutes—ICOMOS Executive Committee meeting, 22 and 23 January 2007

and special World Heritage session of the Executive Committee, 19 January 2007

now available on ICOMOS web site

Dear ICOMOS National and International Committees,

Please note that the minutes of the ICOMOS Executive Committee meeting, 22 and 23 January 2007 and the minutes of the special World Heritage session of the ICOMOS Executive Committee, 19 January 2007 are now available on the ICOMOS web site under the rubric "Records of Statutory meetings" <http://www.international.icomos.org/statutory.htm>.

In the coming week, we will also upload minutes of further meetings eg. the minutes of the ICOMOS Scientific Council sessions and Advisory Committee session last year. Please note that several of these documents are only available in English for the moment. As you know, all translations are done in house at the International Secretariat and therefore it takes a while until we have such voluminous documents translated into French (and we may not be able to translate all

annexes).

With best regards

Gaia Jungeblodt

セミナー、会議などのご案内

(詳しいことは、日本イコモス国内委員会事務局までお問い合わせください)

5th International Seminar on Urban Conservation CHANGING ROLE AND RELEVANCE OF URBAN CONSERVATION CHARTERS

19 -21 November 2007, Recife - Brazil

Organized by the Center for Advanced Studies on Integrated Conservation (CECI) and the Graduated Program on Urban Development of the Federal University of Pernambuco. Supported by: ICCROM, WHC/UNESCO, IPHAN, CAIXA and the Brazilian Ministry of Cities.

This seminar addresses a problem expressed in three questions:

1. Practice. Are the numerous documents (charters, conventions, declarations, guidelines, recommendations and the like), collectively produced documents effective and productive? Do they influence the practice of urban conservation, and how?
2. Theory. Do these documents reflect the state of theory of urban conservation at their time? Do they drive the development of the theory? Do they respond to new ideas of philosophy and epistemology?
3. Diversity. Are such documents and the principles expressed in them universally applicable? Do they need to be interpreted differently in different cultural settings?

Precise information on themes, organization and submission details can be found in the following website: www.cecibr.org/5seminar

4th ICEGE - 2nd Workshop on Geotechnical Earthquake Engineering related to Monuments and Historical Centers

Thessaloniki, June 25-28, 2007

<http://www.4icege.org/home.htm>

Terra 2008 Tenth International Conference on the Study and Conservation of Earthen Architectural Heritage

Organized by the Getty Conservation Institute and the Mali Ministry of Culture, in collaboration with Africa 2009, CRA Terre-ENSAG, ICOMOS South Africa, ICCROM, and the World Heritage Centre, under the aegis of ICOMOS and its International Scientific Committee for Earthen Architectural Heritage.

Bamako, Mali, February 1-5, 2008.

The conference will provide a unique opportunity to discuss and observe firsthand issues of conservation, management and sustainable development both from an international perspective and particular to sub-Saharan Africa, a region rich in earthen architecture. Conference themes include: earthen architecture in Mali; conservation and management of archaeological sites; conservation of living sites (cities, settlements, cultural landscapes); challenges and opportunities of conservation and development; local knowledge systems and intangible aspects of earthen architecture; standards and guidelines for new and existing structures; seismic and other natural forces; advances in research.

Conference registration forms and additional information (conference costs, postconference tours, etc):

www.getty.edu/conservation/field_projects/earthen/earthen_2008_conf.html

The Best in Heritage DUBROVNIK, CROATIA

Patronage: ICOM, UNESCO (Venice), Europa Nostra, ICOMOS, ICCROM and the City of Dubrovnik



27-29 September 2007 (6th year)

More about 2007 programme at: www.thebestinheritage.com/event/programme.php

Details about Poster Session at: www.thebestinheritage.com/event/poster.php

To participate, please register at: www.thebestinheritage.com/event/registration.php

Contact us at

info@thebestinheritage.com

should you have any questions.

その他

ICOMOS joint ISC/NC project on global change

CIRC n°-7/15.02.2007

You will recall that during November 2006 there was a call by John Hurd, President of the Advisory Committee, to International Scientific Committees (ISCs) and National Committees (NCs) for participation in this very important project. Committees were also encouraged to distribute the information widely to members to reach members who have knowledge about the issue of climate change and its effect on Cultural Heritage. The issue and project was also highlighted in the ICOMOS News, December 2006.

The objective over the next several months will be to produce a special issue of Heritage at Risk. It is likely that there will be sufficient material for a separate publication on climate change.

Since an exploratory report prepared by the Polar Heritage, Earthen Architectural Heritage and Risk Preparedness ISCs presented to the Scientific Council in May 2006, the following additional Committees have nominated representatives: ISCs: Heritage Documentation, Training, Interpretation and Presentation, Underwater Cultural Heritage, Legal, administrative and financial issues. NCs: Canada, Denmark. Individuals representing Canada, Costa Rica.

Susan Duyker, ICOMOS International Secretariat

susanduyker@gmail.com

pjerome@attglobal.net

Master Course in "Cultural Projects for Development"

Duration: 15 June 2007 to 15 March 2008

Venue: - on-line study and research from 15 June to 24 August 2007 and from 2 January 2008 to 15 March 2008

- classroom sessions: ITC-ILO, Turin (Italy) from 24 August 2007 to 14 December 2007

This Master is a joint initiative of the International Training Centre of the International Labour Organization (Management of Development Programme) and the Turin University who have pooled their resources for the design and delivery of this course. It combines essential knowledge of cultural economics and cultural policies with the competences needed to design projects in the cultural field. Case studies and study visits are an integral part of the course, designed to facilitate the application of the learning into practice. The Master, conducted in English, is now in its fifth edition. The previous editions were attended by approx 76 students from 45 countries from Africa, Middle East, Asia and Pacific, Europe and the Americas.

Essential requirements for admission are: to hold a first university degree; to be able to submit a viable cultural project idea; to be fluent in the English language.

For any further information, please contact:

Cultural Projects for Development, Course Secretariat

Management of Development Programme

International Training Centre of the ILO

Viale Maestri del Lavoro, 10

10127 Turin - Italy.

Tel.: +39-011-6936945; Fax.: +39-011-6936369

E-mail: cultural@itcilo.org

日誌 事務局

(2007年2月3日～4月30日)



- 2/9 前野委員長、三重県立熊野古道センターのオープン式典参加
- 3/1 明日の靱を考える会他3団体宛に抗議書への返答を送付、福山市長宛に公開質問状を送付
内閣総理大臣、広島県知事、広島市長、福山市長へ ICOMOS-ICLAFI による勧告文を送付
- 3/12 奈良文化財研究所より共催名義使用許可申請の回答(承諾)
三重県より拡大理事会資料としてパンフレット、Historic Scotland より出版物シリーズ “Technical advice notes” 及び “Guide for practitioners” を受領
- 3/13 インフォメーション誌7-1号発行、会員へ順次発送
第5小委員会、第21回会合(於文化財保存計画協会 会議室)
- 3/16 (財)ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所より ACCU news no. 360, 2007.3 を受領
日本ユネスコ協会連盟より ユネスコ vol.1108, 2007.3 を受領
- 3/23 九州大学大学院法学研究院 河野研究室よりイコモスシンポジウム報告書2006 Programme for Professionals in the Fields of UNESCO's Competence “World Heritage Convention and the Buffer Zone” を受領
- 3/26 東京文化財研究所 文化遺産国際協力センターより、第20回国際文化財保存修復研究会報告書「文化遺産の生物劣化と国際協力」、第29回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「シルクロードの壁画が語る東西の文化交流」コロキウム・シンポジウム報告書(日本語版)「シルクロードの壁画」を受領
- 4/2 益田兼房氏より、「靱の浦のまちづくり」(靱まちづくり工房発行)、「東アジアにおける歴史的集落空間の保存手法に関する比較研究」(科学研究費補助金 基盤研究 研究成果報告書)を受領
- 4/15-20 UNITAR HOAP(広島ユニタールオフィス) Series on the Management and Conservation of World Heritage Sites “World Heritage management over time - maintaining values and significance” 研修コース開催。宇高雄志氏(講師)、前野委員長をはじめ数名がオブザーバー参加
- 3/18 2007年次第1回拡大理事会(於三重県立熊野古道センター)
- 4/12 日本イコモス国内委員会後援、エチオピア歴史遺産会議2007(於日本建築学会 建築会館大ホール)、青柳正規、三宅理一、岡田保良、斉藤英俊各氏講演、前野まさる委員長総括
- 4/13 日本イコモス国内委員会として、Questionnaire on the Publications of the ICOMOS Committees に対する返答を本部 Documentation Centre へ送付
- 4/18 第25回 International Day for Monuments and Sites に際して、日本イコモス国内委員会主催研究会「富士山の世界遺産暫定リスト登録について—現状と課題—」開催(於岩波書店 アネックス3F セミナールーム)。講演者4名を含め37名が参加
- 4/21 日本イコモス国内委員会・奈良文化財研究所共催、「歴史的建造物保存修理と復元展示における構造補強について」見学会・研究集会開催(於唐招提寺、平城宮大極殿、奈良文化財研究所小講堂)。約30名が参加。
- 4/27 (財)ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所より文化遺産ニュース March 2007 vol. 16 を受領

日本イコモス国内委員会 維持会員(代表者)

(敬称略・順不同)

株式会社 尾田組(尾田芳信)	株式会社 鴻池組(大岩祥一)
株式会社 総合計画機構(糸谷正俊)	株式会社 都市環境研究所(矢嶋啓自)
株式会社 乃村工務社(乃村義博)	株式会社 ブレック研究所(杉尾伸太郎)
株式会社 文化財保存計画協会(矢野和之)	「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会(有賀 正)
株式会社 トリアド工房(伊藤民郎)	西武建設株式会社(大澤茂治)
株式会社 京都科学(片山 保)	北野建設株式会社(北野次登)
株式会社 小林石材工業(小林美和)	「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」(仁科恵敏)

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Secretary General	事務局長	矢野 和之	Kazuyuki YANO
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		黒田 乃生	Nobu KURODA
		清水 真一	Shinichi SHIMIZU
		杉尾 邦江	Kunie SUGIO
		鈴木 博之	Hiroyuki SUZUKI
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		田辺 征夫	Yukio TANABE
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮城 俊作	Shunsaku MIYAGI
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		前田 耕作	Kosaku MAEDA
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
		崎谷 康文	Yasufumi SAKITANI

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage Training	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工桑 善通	Yoshimichi KURAKU
Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
Vernacular Architecture	本中 眞	Makoto MOTONAKA
	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	伊藤 延男	Nobuo ITO
	本田 智子	Satoko HONDA
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Heritage Documentation	山田 修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
	大野 渉	Wataru OHNO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.2 23 MAY 2007

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS National Committee Secretariat

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp